

「聖書日課」と分かち合い

5月23日(月)～5月29日(日) (文責 K.W)

●5月23日(月)使徒言行録 27:1～8 ローマに向かって

27:1 わたしたちがイタリアへ向かって船出することに決まったとき、パウロと他の数名の囚人は、皇帝直属部隊の百人隊長ユリウスという者に引き渡された。

27:2 わたしたちは、アジア州沿岸の各地に寄港することになっている、アドラミティオン港の船に乗って出港した。テサロニケ出身のマケドニア人アリストルコも一緒であった。

27:3 翌日シドンに着いたが、ユリウスはパウロを親切に扱い、友人たちのところへ行ってもてなしを受けることを許してくれた。

27:4 そこから船出したが、向かい風のためキプロス島の陰を航行し、

27:5 キリキア州とパンフィリア州の沖を過ぎて、リキア州のミラに着いた。

27:6 ここで百人隊長は、イタリアに行くアレクサンドリアの船を見つけて、わたしたちをそれに乗り込ませた。

27:7 幾日もの間、船足ははかどらず、ようやくクニドス港に近づいた。ところが、風に行く手を阻まれたので、サルモネ岬を回ってクレタ島の陰を航行し、

27:8 ようやく島の岸に沿って進み、ラサヤの町に近い「良い港」と呼ばれる所に着いた。

*カイザリヤからローマまで海路 2700km 陸路 180km ミラで大型船に乗り換えても、皇帝への上訴という名の元、ローマへ宣教大旅行です。最後まで忠実な同労者アリストルコの同行、シドンにおけるユリウスの好意的な態度など、北西風に苦しむも主に守られ道は開かれて行きます。私たちも困難と思う事に出会っても、御心なら道は開かれると信じて進んで参りたいです。

●5月24日(火)使徒言行録 27:9～12 パウロの忠告

27:9 かなりの時がたって、既に断食日も過ぎていたので、航海はもう危険であった。それで、パウロは人々に忠告した。

27:10 「皆さん、わたしの見るところでは、この航海は積み荷や船体ばかりでなく、わたしたち自身にも危険と多大の損失をもたらすことになります。」

27:11 しかし、百人隊長は、パウロの言ったことよりも、船長や船主の方を信用した。

27:12 この港は冬を越すのに適していなかった。それで、大多数の者の意見により、ここから船出し、できるならばクレタ島で南西と北西に面しているフェニクス港に行き、そこで冬を過ごすことになった。

*日々の暮らしの中で岐路に立ち悩む時、人の目から見ても一見美しく見える道よりも、神さまが指し示して下さったより確かな道を選ぶことが出来れば幸いです。御言葉とお祈りを通して時に熱く、時に静かな主の語りかけを逃さずに聞いていくことの大切さを示されました。

●5月25日(水)ローマ 5:1～5 苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を

5:1 このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、

5:2 このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

5:3 そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

5:4 忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。

5:5 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

* 十字架上で流されたイエス様の血潮により、信じる者に完全な許しを約束して下さった主に感謝いたします。私たちは苦難は出来れば避けて通りたいと思う者ですが、試練の時も主にあって忍耐する時に、練達、裏切ることのない希望へと繋がることを感謝いたします。

●5月26日(木)ルカ21:7~19 髪の毛一本も

21:7 そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」

21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。

21:9 戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」

21:10 そして更に、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。

21:11 そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。

21:12 しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。

21:13 それはあなたがたにとって証しをする機会となる。

21:14 だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。

21:15 どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。

21:16 あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。

21:17 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。

21:18 しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくなる。

21:19 忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

* 私達は戦争を目の当たりにして胸が痛み、度重なる地震があり、疫病の中にあります。「おびえてはならない…世の終わりは直ぐには来ないからである。」と言われ励まして下さるイエス様に信頼して、共に祈り自分に出来ることをさせていただきながら耐え忍び、永遠の命に至る者になりたいです。

●5月27日(金)ルカ9:10~17 賛美と祈りを唱えて

9:10 使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。

9:11 群衆はそのことを知ってイエスの後を追った。イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。

9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」

9:13 しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」

9:14 というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいつづ組にして座らせなさい」と言われた。

9:15 弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。

9:16 すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。

9:17 すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

*イエス様は後を追いかけて行った群衆を迎え入れて下さり、神の国を語って心を満たし、治療の必要な人々をいやして下さいました。又、5つのパンと2匹の魚の奇跡により全ての人のお腹まで満たして下さいました。私たちも例え拙くても真理を求めてイエス様を追いかけてお従いできたら幸いです。

●5月28日(土)ルカ22:14~23 共に生かされている恵みを覚える

22:14 時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。

22:15 イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。

22:16 言うておが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」

22:17 そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。

22:18 言うておが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」

22:19 それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

22:20 食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。

22:21 しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。

22:22 人の子は、定められたとおりに去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」

22:23 そこで使徒たちは、自分たちのうち、いったいだれが、そんなことをしようとしているのかと互いに議論をし始めた。

*主イエス様が十字架にかかる前夜最後の晩餐として知られる「過越の食事」で、主ご自身が晩餐式を制定されました。主の晩餐は私たちが罪から救うために、身代わりとして死んで下さった神の子を覚えるものです。主の晩餐に預かる時に主が私たちに何をして下さったのか思い起こし救いの根拠に立ち帰ることが許されて感謝いたします。主の晩餐式に共にあずかれる日を楽しみにしています。

●5月29日(日)使徒言行録27:13~38 ともに元気に

27:13 ときに、南風が静かに吹いて来たので、人々は望みどおりに事が運ぶと考えて錨を上げ、クレタ島の岸に沿って進んだ。

27:14 しかし、間もなく「エウラキロン」と呼ばれる暴風が、島の方から吹き降ろして来た。

27:15 船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができなかったので、わたしたちは流されるにまかせた。

27:16 やがて、カウダという小島の陰に来たので、やつのことで小舟をしっかりと引き寄せることができた。

27:17 小舟を船に引き上げてから、船体には綱を巻きつけ、シルティスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて海錨を降ろし、流されるにまかせた。

27:18 しかし、ひどい暴風に悩まされたので、翌日には人々は積み荷を海に捨て始め、

27:19 三日目には自分たちの手で船具を投げ捨ててしまった。

27:20 幾日もの間、太陽も星も見えず、暴風が激しく吹きすさぶので、ついに助かる望みは全く消えようとしていた。

27:21 人々は長い間、食事をとっていなかった。そのとき、パウロは彼らの中に立って言った。「皆さん、わたしの言ったとおりに、クレタ島から船出していなければ、こんな危険や損失を避けられたにちがいません。

27:22 しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです。

27:23 わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、

27:24 こう言われました。『パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。』

27:25 ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。

27:26 わたしたちは、必ずどこかの島に打ち上げられるはずです。」

27:27 十四日目の夜になったとき、わたしたちはアドリア海を漂流していた。真夜中ごろ船員たちは、どこかの陸地に近づいているように感じた。

27:28 そこで、水の深さを測ってみると、二十オルギアあることが分かった。もう少し進んでまた測ってみると、十五オルギアであった。

27:29 船が暗礁に乗り上げることを恐れて、船員たちは船尾から錨を四つ投げ込み、夜の明けるのを待ちわびた。

27:30 ところが、船員たちは船から逃げ出そうとし、船首から錨を降ろす振りをして小舟を海に降ろしたので、

27:31 パウロは百人隊長と兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助からない」と言った。

27:32 そこで、兵士たちは綱を断ち切って、小舟を流れるにまかせた。

27:33 夜が明けかけたころ、パウロは一同に食事をするように勧めた。「今日で十四日もの間、皆さんは不安のうちに全く何も食べずに、過ごしてきました。

27:34 だから、どうぞ何か食べてください。生き延びるために必要だからです。あなたがたの頭から髪の毛一本もなくなることはありません。」

27:35 こう言ってパウロは、一同の前でパンを取って神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。

27:36 そこで、一同も元気づいて食事をした。

27:37 船にいたわたしたちは、全部で二百七十六人であった。

27:38 十分に食べてから、穀物を海に投げ捨てて船を軽くした。

*パウロの注告も聞かず、上手くいくと思った航海ですが暴風で船は沈みそうです。そして積荷や船具を投げ捨て人力で頑張りますが、状況は悪化し希望が見出せず彼らは失望と絶望の中にいます。パウロは「皆さん元気を出さない。…」天使からの言葉を語り励まして下さいます。例え失敗しても、自分の力だけで何とかしようと奮闘するのではなく、先ず主の元に持っていきご相談し対処した時に、思わぬ知恵や助けをいただいていたことを私たちは感謝いたします。